

会 議 録（要点筆記）

会 議 名	第 1 回米原市総合計画審議会
開 催 日 時	平成27年 6 月18日（木） 午後 7 時00分～午後 8 時30分
開 催 場 所	米原市役所米原庁舎 会議室 2 A
出席者および欠席者	出席者：岩崎恭典委員（会長）、鶴飼修委員（副会長）、西林正夫委員、 振角大祐委員、川崎祐七委員、北川学委員、小竹一男委員、 竹中礼子委員、田中雄一委員、鏑田鉄雄委員、富岡尚子委員、 中野民子委員、福永ひろみ委員、森嘉信委員、安田智枝美委員 事務局：平尾道雄市長、田中祐行政策推進部長、山田英喜政策推進部理事、 みらい創生課：西村善成課長、 政策推進課：小寺真司課長補佐、森川誠、川瀬雅史、関沢匡司、福井敏 傍 聴：3 人 欠席者：なし
議 題	・第 2 次米原市総合計画策定の方針について ・第 2 次米原市総合計画策定の視点について ・米原市シティセールスプラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略について ・米原市自治基本条例について ・第 2 次米原市総合計画策定スケジュールについて
結 論	・会長に岩崎恭典委員、副会長に鶴飼修委員が選任された。 ・次回は、第 1 次総合計画の成果と課題について審議する。 ・今後は、具体的な審議となるため事前に資料を送付する。
審 議 経 過	
事務局	1 開会（19:00～19:02） 審議会については原則公開となり、傍聴者を認めておりますこと御了承いただきたい。
市長	2 市長挨拶（19:02～19:05） 市政に対し、様々な分野で御協力いただきありがとうございます。本格的に地域住民で地域の課題を解決する時代がやってきた。これまで取り組んできた施策を点検して、新たな施策を推進していきたい。どのように乗り越えていくかを考える上で、これまでにない視点として女性、若者や子どもたちの意見を聞きながら進めていかなければならない。地方自治の在り方を見直していくことが大切である。そのためにはみなさんの力が必要である。自治基本条例に掲げる市民協働のまちづくりを推進し、信頼され評価され、全国に誇れるまちとしていきたい。願いや希望を実現できるよう、忌憚のない意見を出し合って御審議くださるようお願いしたい。

事務局	3 委嘱状交付（19:05～19:08） 委員を代表して岩崎委員に交付 4 審議会委員および事務局の自己紹介（19:08～19:17） 資料1に基づき自己紹介 5 審議会の役割等について（19:17～19:21） 資料2に基づき事務局から説明 米原市総合計画審議会条例第6条第2項の規定に基づき、15人の委員全員が出席しているため、審議会が成立していることを説明した。
事務局	6 会長、副会長の選出（19:21～19:27） どのように選出すればよいか。
委 員	事務局一任
事務局	事務局案を提示させていただいてもよろしいでしょうか。
委 員	異議なし
事務局	案としては会長に岩崎委員、副会長に鵜飼委員を考えているが御意見を伺いたい。
委 員	異議なし
事務局	ありがとうございます。一言ごあいさつをいただきたい。
会 長	地方自治を勉強している。自治の現場を学生に伝えている。そのフィールドの1つとして10年以上前から米原市と関わっている。今回、これからの米原のことを考える審議会の会長をいただいた。米原だけが人口が増加するということはあるので、その中でずっと健やかに過ごせるまちをつくらなければならない。日本の人口は、2050年には9,000万人程度の人口になる。高齢者の定義も変わってくるだろう。20歳の学生については人口減少社会の中で過ごしていくために、我々が検討していくことが大切になる。どうしても網羅的な内容になるだろうが、若い方が審議会メンバーにおられるのはいいことである。それぞれの立場で御意見をいただきたい。
副会長	会長を補佐する形で頑張らせていただく。

会 長 委 員 事務局 会 長 会 長 委 員	7 諮問（19:27～19:31） 市長から委員長へ諮問書の提出 8 議事 進行を事務局から会長に交代 第1回目ということで、総合計画と他の事業との関連性はどうだろうかというところの勉強とスケジュールの確認である。事務局からの説明をお願いする。 （1）第2次米原市総合計画策定の方針について（19:31～19:53） 資料3に基づき事務局から説明 過去のことは壊さなくていいのかと思いますが、第1次計画を総括して課題などに目を向ける事はないのか。 大事なことである。評価点検が大事であり、現状分析なども説明しながら進めていきたい。 例えば基本計画の各項目に5年後の達成指標が載っている。この振り返りは必要であろう。反省も当然必要である。 （2）第2次米原市総合計画策定の視点について（19:53～20:10） 資料4、資料5に基づき事務局から説明 総合計画の審議に入る前に知っておかなければならない3つのことについて説明していただいた。シティセールスプランを強力に進める。いってみれば移住を図ることも考えたいというお話でした。まち・ひと・しごと創生総合戦略は、総合戦略は来年度の国の予算にも関係するため、9月までにはある程度のものをつくらなければならない。総合計画の期間、10年の最初の5年間の部分は、別のところである程度検討していかなければならない。総合計画は、その5年を含んだ10年間の計画を議論することになる。 平成18年に策定した自治基本条例を踏まえて検討しなければならない。自治基本条例は、これから人口減少社会に向かっていくときに市民に覚悟を求めるような条例ともされている。市役所も議会も、それから事業者の皆さんも覚悟を決めてやっていくしかない。そういう条例だと思っている。 シティセールスのロゴについて、ストーリーや思いなど教えていただきたい。
---	--

事務局	地方創生への取組により先にシティセールスプラン策定に関する有識者会議を開催し、作り上げたものである。ステキ調査ということで米原市のイメージを掴んだところ、この中からいろいろなイメージを感じていただきたいとしている。
委 員	どうしてこうなったのかというのを考える事から関われるというのは、とてもいいことだと思う。
委 員	ロゴマークについては私が考えたのであるが、事の始まりは一滴の水から始まるということで、自然環境の良さから水滴のイメージを表し、その先、原石のように磨いていこうという思いを合わせてそのように考えた。赤というのは人の情熱や意思を意識した。
会 長	DAKARA（だから）とは。
委 員	エピソードの全てに『だから』をつけて考えられるようになっている。
会 長	既に米原にはこれからの10年を考える材料はある。有利なのは一度、総合戦略でまとめることができることである。
	(3) 第2次米原市総合計画策定スケジュールについて (20:10~20:20) 資料6に基づき事務局から説明
事務局	多くの方に関わっていただきたいという思いから、市民意識調査の他に、市民の方から10年後の夢、希望、願いをいただくため、七夕にちなんだアンケートを公民館等に設置し、いただいた意見を基にワークショップを2回開催してそれらの内容を踏まえた報告会を開催し、それを審議会で議論の種として進めていきたい。
会 長	まち・ひと・しごとの意識調査と市民意識調査とは同じものであるのか。
事務局	まち・ひと・しごとの意識調査は、絞り込んだ形で実施するため、総合計画のアンケートとは異なるものである。
会 長	今回は資料を沢山いただいているので、流れなどは理解いただいたと思うが、次回は第1次基本計画の内容の評価や、本日説明いただいた資料について御意見いただきたい。

事務局	9 その他（20:20～20:30） 次回は、7月30日午後7時から米原庁舎2Aで開催する。 事務局：次回からは会議前に資料を送付するので確認をお願いしたい。 10 閉会（20:30）
-----	--